

K E
気

SGH 通信

K O H
高海を素材とするグローバルリテラシー育成
～東日本大震災を乗り越える人材を目指して～

第9号 平成29年5月31日発行

SGHとなり2年目を迎えました。「思考力」「コミュニケーション力」「多様性・協働性・行動力」を兼ね備えたグローバル人材の育成を目指し、今年度もSGH事業を展開していきます。昨年度同様「SGH通信」ではSGHとしての取組を中心とした生徒の活動を紹介します。平成28年度に発行した第1号～第8号、及び「SGH事業構想についての概要」は気仙沼高校のホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

2年生「創造類型」スタート！フィールドワークを唐桑で実施

4月20日（水）、2年生創造類型34名は唐桑にあるNPO法人「森は海の恋人」の研究施設を訪問しました。研究に大切な視点などについての講話を聞いた後、「九九鳴き浜」の見学、海洋プランクトンの観察、海洋調査体験を行いました。続いて、「生態系の研究を行う上で貴重なポイント」となる震災によって造られた海水と淡水が混ざり合う湿地帯を訪れました。短い時間ではありましたが、「研究の種はたくさんある」ということが実感できるフィールドワークとなりました。フィールドワーク以降、「思考ツールを学ぶ」「数字に疑問を持つ」「ケースメソッド」など研究を進める上で必要な力を高め、現在は研究テーマの絞り込みを行っています。



九九鳴き浜の見学



プランクトン観察



海洋調査体験

【生徒の感想】 これまで常識と言われていたことでも、実際調べてみると異なっていたり、まったく根拠がなかったりということに驚きました。今後も研究やこういった活動を通して考えを深めていきたいです。／透明度が高いキレイな海は生物生産には適さないのを初めて知った。観光のキレイな海と、魚が良く住めるキレイな海は、意味合いが全然違うのだと感じた。／初めは興味があまりなかったが実際にいってみるととても面白く、自分がいかに知らないかをつきつけられました。／データを使わなかった昨年度の研究があまりにも説得力が弱かったことに気付かされました。インターネットの情報1つ使うにしても、多くのサイトから調べ、批判的意見も探して、色々な視点からの意見を見つけるべきだと感じました。／講義の「自分で体験して、感覚を養う」という言葉から、感覚を養っていこうと思いました。

1年生「地域理解講座」を実施 研究テーマ決定の参考に！

5月17日・24日の2日間、1年生「地域社会研究」において「地域理解講座」を実施しました。今年は、来年度統合する気仙沼西高校の1年生80名も一緒に受講しました。今後、5つの講座を参考にして研究テーマを決定していきます。

<海と産業>気仙沼市産業部産業再生戦略課長 鈴木誠 氏

海や山の恵みを利用した「気仙沼ならではの6次産業」のお話など、気仙沼の産業における現状と課題を分かりやすく説明していただきました。

【生徒の感想】 今まで気仙沼の産業について知っているつもりでいましたが、全く知らなかったことに気づかされました。特に、流通によってたくさんの費用がかかることに驚きました。／講話の中で、新たな取組というキーワードに着目しました。新魚市場の建設や販路回復のための新商品の開発、ILCを中心とした新産業など気仙沼は産業においてたくさんの「伸びしろ」があると思います。そこに、高校生のアイデアを入れて全国に気仙沼の名を轟かせられるような新産業の開発を行ってみたいですね。





<海の文化>リアス・アーク美術館 学芸係長 山内宏泰 氏

海と山を利用してきた気仙沼地方の歴史に触れながら、「文化とは何か?」「町づくりの考え方」など多くのキーワードを提示していただきました。

【生徒の感想】 とても考えさせられる内容でした。気仙沼は発展してきて近代化を進めた結果、今に至る…。一見いいことですが、文化の風化などの面からも考えることができた貴重な講演でした。／「環境を主体とした引き算」の考えや「人口減に応じたコンパクトな町づくり」の発想には驚かされました。／「文化」とは形成してきた記憶の塊で、進化し続けるものだということがすごく印象に残りました。引き継いできた知識や新たな考え方、多様性が“海の文化”を築いてきたことが分かりました。

<海と防災>気仙沼市総務部危機管理課主査 鈴木正人 氏

震災当時の状況や震災以降に実施している防災訓練の工夫点など、海と暮らす私たちに必要な防災に対する意識や取り組みについてのお話をいただきました。

【生徒の感想】 震災を教訓として気仙沼市では様々な対策をしていることが分かりました。防災訓練の見直しでは「コントローラー」と「プレーヤー」という役割分担まで行っていることを初めて知りました。／支援を受けるための計画を作成することの重要性を今まで考えたこともありませんでした。／「明治三陸の経験が昭和三陸の被害を減らした。我々の責務は、震災の記憶・経験を風化させずに未来の人の命を救うために後世に伝えること」という話が心に残りました。



<海と人間>気仙沼市震災復興・企画部震災復興・企画課長 小野寺憲一 氏

昨年度に引き続き講師を務めていただきました。震災以前からの課題を含め、これからの町づくり・人づくりのポイントについてお話をいただきました。

【生徒の感想】 3.11を起点に考えがちであったが、震災前からの課題と震災による課題の両方を「復興を利用する形で解決する」と考え方が勉強になりました。／「日本は魚離れだが海外は違う。魚のビジネスチャンスは海外!」という話を聞き、気仙沼は海外に目を向ける必要があると感じました。／「地域の社会課題の解決なくして、真の復興なし」という言葉が心に残りました。今まで、新しいことに挑戦するほうが良いと思っていましたが、それより先にやるべき事があったことに気がつきました。この学びを今後の活動に生かしたいです。



<三陸の自然>NPO法人「森は海の恋人」研究員 白幡勝美 氏

昨年度に引き続き講師を務めていただきました。エネルギー、鉱物資源、地理的な利点など「三陸は研究の宝庫である」ことを教えていただきました。

【生徒の感想】 講話を聞いて、三陸の自然がILCに関わってくることに興味を抱きました。地域の文化、産業、雇用などこの地域にとって良い影響があると思うだけで期待に胸が膨らみます。／雨が少ない地域が太陽光発電に向いている地域であることなど、気仙沼のエネルギーについて考える良い機会になりました。／気仙沼の資源についていろいろな事が分かりました。鉱物資源についてはあまり知る機会がなかったので、調べてみたいと思いました。



【お知らせ】C-cube<英語学習推進組織>を活用しよう!

英語運用能力を活性化させることを目的に英語科が中心となり“C-cube”を展開しています。内容とコースは次の通りです。

- ① Career course (キャリア育成コース) : 英検, GTEC の直前対策指導
- ② Cross-culture course (異文化理解促進コース) : 海外在住の人々 (アメリカ, ラオス, フランス, 韓国等) と、メールやスカイプを通じて日本語教育や壁新聞のやり取りなどを行う。交換留学生の受け入れが生じた際、ホームステイ先の提供等
※昨年度より継続 : CS 講座・ALT との英会話・スカイプ交流
- ③ Creation course (創造力向上コース) : 英語コンテストの運営, 英語劇への参加, Express Yourself への参加, 校内発表



【研修参加の報告】3月にAPUに行ってきました。

気仙沼市とAPU(立命館アジア太平洋大学)の連携協定を受け、本校生がAPUで研修する事業がスタートしました。2年生10名, 1年生9名が3月26日(日)から28日(火)までの研修に参加。APUの学生との交流を通じて、異文化理解を深めるとともに英語によるプレゼンテーションの能力を高めることができました。